



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

桜の名所春色に染まる

4月2日から17日まで、赤城南面千本桜で桜まつりを3年ぶりに開催しました。訪れた人は春の日差しの中で、1,000本を超える桜が咲くトンネルなどを楽しんでいました。10日には、JR前橋駅から電動クロスバイクで市内を巡る千本桜お花見ファンライドも開催しました。



2つの企画展が開催中

前橋文学館では「第29回萩原朔太郎賞受賞者 岸田将幸展」を5月8日(日)まで、「雨月衣のいとおしき世界」を5月15日(日)まで開催しています。いずれも作品だけでなく、作者の人物像が浮かび上がるさまざまな物も展示。両者が創り出す作品の世界をより深く知ることができます。



路上図鑑で駐輪を防止

前橋工科大建築学科・臼井研究室と連携し、「前橋路上図鑑」をJR前橋駅北口広場の路上に設置しました。設置したのは本市が誇る文化や自然を紹介する図柄、計13枚。駅利用者などへ本市の特徴と魅力を発信するとともに、放置自転車の抑制につながります。

いきいき まえばし人

昆虫入り焼き菓子販売
大澤 菜那さん・26歳
灯螂舎(大胡町)

昆虫に魅せられて雑貨店を開店



5年前に東京から本市に移住した大澤さんは、昨年6月に、昆虫を使用した焼き菓子などを扱う店をオープンした。

「移住のきっかけは、高校時代から交際していた現在のパートナーが、市内の大学に通っていたこと。私は高校卒業後、都内の企業でアクアリウム(熱帯魚水槽)を管理する仕事をしていました。数年が経ち、社内でWEB制作や事務などの座り仕事が増えたことで自ラリモーターワークを申し出て、パートナーの住む前橋市に移住しました」

子どもの頃から昆虫や爬虫類が好きだった大澤さん。「好奇心から、「ペットの爬虫類と同じ食事をしてみたい」という思いが心のどこかにありま

「本格的に昆虫食に興味を持ったのは、一昨年だったという。」「昆虫が持つ栄養価や昆虫食市場の可能性を知り、手始めに飼っていたペット用のコオロギや野生の昆虫を調理してみました。昆虫のおいしさを実感しました。店で扱っている焼き菓子は、県内の製造設備を借りて、虫の見た目が苦手な人にも配慮したものを2人で作っています」

将来は昆虫を食材に使ったカフェもオープンしたいと語る大澤さん。店名「灯螂舎」には、特にカマキリが好きだという大澤さんの、虫が灯りに集まるように、虫好きな人たちが自然と集まれる場所になれたらという思いが込められている。

認知症は誰もがなり得る病気。安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて、自分ごととして考えていくことが大切です。本年度は認知症の特集をシリーズで掲載します。今回のテーマは「認知症によるもの忘れと加齢に伴うもの忘れの違い」です。

認知症は、記憶障害や理解・判断力が低下するなど、生活上での支障が少しずつ増えていく脳の病気。高齢化の加速に伴い、令和7年には高齢者の5人に1人が認知症になると推計されています。認知症を引き起こす病気や症状の表れ方・経過も1人1人異なります。友人との食事の約束をカレンダーのメモを見てハッと思い出すことや、家族と話し込んでいてうっかり鍋に火をかけたままにしてし



Vol.1
認知症によるもの忘れと
加齢に伴うもの忘れの違い

